

交換留学（派遣）帰国報告書

.....

留学先大学 : Karl-Franzens-Universität Graz
留学先での所属学部・研究科 : Geisteswissenschaftliche Fakultät
留学先での在籍身分 : Ordentlicher Studierender
留学期間 : 2016 年 6 月 ~ 2017 年 7 月
神戸大学での所属学部・研究科 : 人文学研究科
学年（出発時）: 修士2年
本報告書記入日 : 2017 年 7 月 6 日

1. 留学先大学について

1-1. 留学先大学の「学期」について

学年開始月日 : ____月____日

学年終了月日 : ____月____日

学期 :

① 9 月 6 日 ~ 1 月 31 日

② 3 月 2 日 ~ 6 月 30 日

③ ____月____日 ~ ____月____日

④ ____月____日 ~ ____月____日

1-2. 留学先大学の特長、人気のある分野等

グラーツ大学は、グラーツ市の中心から北東に位置し、1585年に創立されたオーストリアで第二の規模の学生数を有する総合大学です。オーストリア国内における言語学やゲルマニスティック、あるいは東南ヨーロッパ史研究の分野では拠点となる大学です。

1-3. 留学先大学のサポートについて記入してください。

語学面でのサポート :

希望者にはチューター制度が適用され、入寮手続きから授業登録などの際に、言語面でのサポートが受けられます。

勉学面でのサポート :

勉強面では、授業登録の際に属学部の先生と面談し、履修に関する相談が受けられます。

精神面でのサポート :

精神的な面でのサポートは、特に受けませんでした。

住居・生活面でのサポート：

留学前に、入寮に関してこちらの希望を伝えることができ、自分の場合は第一希望の寮に入ることができました。

課外活動のサポート：

定期的に、大学の留学生担当課から留学生を対象とした旅行やパーティーの案内が届き、学生同士の交流機会を作ってくれます。

1-4. 神戸大学の所属学部・研究科にて「単位認定」を申請する予定ですか。

はい

いいえ

2. 住居

2-1. 住居についてアドバイスを含め自由に記入してください。(気をつけること等)

今回は大学の斡旋する学生寮（WIST-heim）に入りました。部屋は、最大4人で台所、浴室、トイレを共有し、各々個室を割り当てられるという形式のものでした。学生寮を選ぶ際は、大学からの距離や立地も参考にしましたが、寮に個人用のWi-Fiがあったことは便利であったと思います。（ただ、これは現地到着後に分かりました。）ですので、ネット環境ができる範囲で事前に問い合わせておくと、選考の基準になるかと思います。

3. 生活について

3-1. 保険について

どのような種類の保険に加入したかを教えてください。

東京海上日動による学研災付帯海外留学保険に、事前に加入了しました。

また、現地で加入した保険があれば、ご記入ください。

現地では、Steiermärkische Gebietskrankenkasseという健康保険に加入了しました。保険料は、月額約57ユーロでした。なお、この健康保険への加入は、滞在許可を取得する際に必要になります。

3-2. PC（パソコン）について

PCの保有の状況： 日本から持参した 現地で購入した 保有しなかった

住居内のインターネットへの接続の可否： 接続できた 接続できなかった

住居内でインターネットに接続していた場合、プロバイダー、料金等について記入してください。

個人Wi-Fiで、月100GBまでの容量がありました。料金は寮費に含まれています。

大学でのPCの使用の可否： 使用できた 使用できなかった

大学でPCを使用していた場合、施設の場所や日本語環境等について記入してください。

大学に設置されているパソコンも、学籍とパスワードを入力すれば使用できます。言語は、基本的にドイツ語で、日本語入力はできませんでした。

3-3. 医療について

留学中に病院に通いましたか。医療費等について記入してください。

一回、市内的一般医にかかりました。医療費は、保険の適用でその場では無料でした。その場で処方箋をもらい、薬局に行くと指定された薬を購入できます。

健康管理あるいは衛生面について特に注意すべきこと。

グラーツの水は硬水で、空気は乾燥しています。個人差はありますが、腹痛や皮膚の乾燥など起こしてしまう可能性があるかと思われます。

3-4. 銀行口座について

留学先でお金を引き出せるように、どのように準備・手続きしましたか。

銀行口座は、住民票と学生証があれば開けます。僕は、Bank Austriaで学生口座を開きました。

3-5. 異文化体験について

留学先の文化・社会（習慣の違い等）について記入してください。

ことさら大きな違いはありませんが、事あるごとに挨拶を交わします。入店時、飲食店での会計時など。

大学外の現地の人々と、どの程度コンタクトをもちましたか。

基本的に大学外の人たちとは、偶然的な出会い以外は接触する機会を自発的には設けませんでした。

課外活動（ボランティア、インターンシップ、アルバイト等）をしましたか。

特にしました。

留学先の「町」についてコメントがあれば、記入してください。（安全性、外国人への態度等）

グラーツは、人口20万人程度の小さな街で、滞在期間中大きな事件は起きました。住民も外国人に対して、とても友好的かつ親切で居心地は大変良いです。

3-6. 留学期間中に就職活動をしましたか。就職活動をした場合、教えてください。

特にしました。

4. 経費について

4-1. 奨学金を受給していた場合、奨学金についてご記入ください。

(財団等名) 日本学生支援機構 80,000 円／月

5. アドバイス及び感想

5-1. 現地で参考となった留学先国の情報（出版物、ホームページ）を記入してください。

住民登録など滞在手続きに関しては、グラーツ大学が発行している留学生用パンフレットが一番具体的な情報を入手しやすいと思います。

事前に参考にしたHPは、オーストリア大使館のものです。

5-2. 日本から持参すると良いと思われるものがあれば、記入してください。

パソコン、電子辞書、折り紙、耳かき

5-3. 留学することによって得られたことについて記入してください。（語学力の向上、キャリアパスの明確化、異文化理解等）

※ 語学力については、差し支えの無い範囲で、留学前と帰国後の客観的な指標を教えてください。

留学前：（独検定 ） 3級 点 → 帰国後（ ） 点

まず、語学力運営能力に関しては特に「話す・聞く」能力が向上したと思われる。今後の進路に関しても、日本で勉強していた時より具体的な進路を考えられるようになった。

5-4. 振り返ってみて、何が最大のトラブルでしたか。

トラブルらしいトラブルはありませんでしたが、一番苦労したのは、在留許可申請でした。必要書類を揃え、国際送金をするなど到着後環境に慣れない中での申請手続きは苦労しました。

5-5. 留学前、留学期間を通じて、神戸大学のあなたへのサポートは適切でしたか。神戸大学への要望があれば記入してください。

事前準備や奨学金の手続きなど神戸大学国際交流課には多岐にわたってサポートしていただきました。強いて要望あげるならば、神戸大学が毎年夏に行っているグラーツ大学での語学研修グループとの接点を渡航前に作ってもらえると、渡航後に現地学生や先生方と早期に知り合える可能性が広がり、グラーツに関する様々な情報も入手しやすくなり、より有意義な渡航準備が可能になると考えます。

5-6. 本留学プログラムを後輩に薦めますか。薦める場合・薦めない場合ともに、理由を記入してください。

グラーツ大学への留学を、後輩の皆さんへもお薦めします。なぜならば、異文化交流、語学研修、専門分野の勉強など様々な場面においてグラーツ大学は、今後につながる有意義な経験を提供してくれたと考えるからです。

5-7. 留学全体を振り返って、以下の質問に答えてください。

(5段階評価、5が最も高い評価、1が最も低い評価)

- ・留学先大学の授業の「質」（内容、レベル等）に満足しましたか： 5
- ・留学先大学の学生サービスに満足しましたか： 5
- ・留学先の住み心地（安全性等）に満足しましたか： 5
- ・住居の「質」（広さ、料金等）に満足しましたか： 5
- ・全体として留学に係る費用は安かったと思い、満足しましたか： 3
- ・神戸大学の留学に係るサポートに満足しましたか： 4
- ・留学全体の総合的な評価： 4

留学先大学 : Karl-Franzens-Universität Graz

留学先での所属学部・研究科 : Geisteswissenschaftliche Fakultät

留学先での在籍身分 : Ordentlicher Studierender

留学期間 : 2016 年 6 月 ~ 2017 年 7 月

神戸大学での所属学部・研究科 : 人文学研究科

学年（出発時） : 修士2年

本報告書記入日 : 2017 年 7 月 6 日

授業について

留学中に履修した授業について記入してください。

No.	コース名	教授名	時間数 ／週	留学先 での単 位数	履修し ている 学生数	予習、復習、テスト等についてアドバイスも含 めて教えてください。
1	Von einer Mittelmacht zu europäischer Geltung (Der Aufstieg des Hauses Habsburg ab dem 15. Jahrhundert)	Kernbauer, Alois	1	2	20	ハプスブルク史の概説。テストは記述 式、留学生は辞書が使用可。
2	Wie Europas Völker einander sahen (Völkertypisierungen im 18. Jahrhundert)	Kernbauer, Alois	1	2	10	18世紀ヨーロッパ史に関するゼミ。ゼミ論文 のテーマは先生が各学生に与えてくれる。
3	Forschung nach „Wahrheit“ (Motivation und Zielsetzung namhafter Historiker und Wissenschaftler vom 18. bis zum 20. Jahrhundert)	Kernbauer, Alois	1	2	8	修士/博士課程学生を中心とするゼミ。報告、 ゼミ論文のテーマは、各自の研究テーマ。
4	Deutsch Mittelstufe 1. Niveau B1/1. Phase, Intensivkurs	Turba, Herwig	集中講 座	4	24	ドイツ語の集中講座。週5回授業で、 進度が早く予習復習は必須。
5	Deutsch, Lese- und Schreibkompetenz, ab Niveau B2	Osterer, Andrea	1	2	7	読み・書き能力に集中した語学講座。求められる内容に対 して授業時間が少ないので、予習復習を積極的にするべき。
6	Deutsch Mittelstufe 2. Niveau B1/2.Phase, Intensivkurs	Kuttner, Karoline	集中講 座	4	25	ドイツ語の集中講座。週5回授業で、 進度が早く予習復習は必須。
7						
8						
9						
10						

授業（カリキュラム等）のクラスのサイズ、成績評価、現地学生の取り組み等

講義と集中講座は生徒数が多く、大人型授業でした。ゼミはいずれも小規模です。成績評価
は、語学講座に関しては出席や提出物、講義・ゼミに関しては試験と論文を基準にされている
ようです。現地学生の勉強態度は、個人差はありますが、概して熱心です。

費用について

留学期間を通して必要だった費用を記入してください。（概算で結構ですので、円価で記入してください。）

- ・航空運賃 : 140,000
- ・住居費 : (月額) 40,000 × (留学月数) 10 ヶ月 = 400,000
- ・食費 : (月額) 32,000 × (留学月数) 10 ヶ月 = 320,000
- ・保険料 : 72,000
- ・その他 : 40,000

合計 : 972,000 (留学期間全体の費用)

その他　自由に記入してください。(800字～)**【語学】**

この留学を通して、ドイツ語への（あるいは、外国語によるコミュニケーションへの）「畏れ」が無くなつたことが、やはり一番の収穫であると考えます。外国語を使ってコミュニケーションをとることは、選ばれた人にしかできない何か特別な行為ではなく、母語とは異なる「道具」を介して意思の疎通を図ることであり、その言語が映す彼らの世界観を知る行為であると改めて実感しました。つまり、言い換えると、それは誰にでも身に付けることができる可能性があるということです。

では、そういうあなたの語学力は実際どうなのか？と聞かれたら、自分が思い描いていたほど上達しなかったというのが、正直なところです。話すこと、聞くこと、書くこと、読むことどれをとってもまだ未熟なまま帰国したことは忸怩たる思いです。ですが、外国で暮らし、何かするためにはどの程度の語学力が必要か、そしてそれに対する自分の語学力を客観視できました。この経験を糧に、着実に次の勉強へとつなげていきたいです。

【専門の勉強・授業】

全学期を通して、授業は自分の勉強している分野と関係のあるものしか履修せず、残りの時間は資料の収集と自習に充てました。それとは別に、ドイツ語の語学講座は学期内講座、集中講座問わず履修しました。専門の勉強に関しては、現地で知り合った同分野の友人に、例えば筆記体史料の解読方法の手ほどきを受けたりして、授業でも取り扱わない部分を補うようにしました。また、語学学習に関しては、Tandemといわれる語学交流の機会を活用して、授業で不明のままであった点や、異なる類義語・対義語や言い換え表現を収集しました。

【生活】

生活面では、留学の期間を経るにしたがい、「慣れ」が出てきました。最初のうちは、チーズとワインひとつ買うのにも新鮮な出会いと発見が満ちていましたが、半年も経つとそれもなくなりました。それはそれで環境に馴染んだということなのですが、だんだん言葉やコミュニケーションが定式化し、発音や言葉遣いへの意識が雑になってしまいました。あるいは、相手の優しさに甘えて、発音や文法の言い間違いを点検しないまま放置し、後で友人などに指摘される場面がままありました。

【まとめ】

「とにかく、恥をかきなさい。」恩師に言われたこの言葉を胸にグラーツで過ごした10ヶ月は、文字通り恥の多い日々でありました。悔しかったことや失敗したこと、やり残したこと、あるいは後悔した経験は数多くあります。そしてこの日々は、そこから多くの学ぶ、充実した日々でもありました。

そして、この街は、人が愉快で、四季を通して太陽が輝き、そして時間がゆっくりと心地よく流れる場所です。恥から学び、自分を整え、次につながる時を待ってくれる寛容さを持った街です。

ここでの時間は、私にとって人生の転機になる時間であったと思います。そして、この機会を与え、支えてくださった人たちに感謝します。